

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	穴吹ビューティ専門学校
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
衛生専門課程	美容学科	夜・通信	1460 時間	160 時間	
商業実務専門課程	エステティック学科	夜・通信	1090 時間	80 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/auf/jitsumu.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	穴吹ビューティ専門学校
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/fukuyama/jigyohoukoku.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
(備考) 2020年4月1日までに、複数の学外者である理事の選任を確実に実施する			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	穴吹ビューティ専門学校
設置者名	学校法人穴吹学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的として「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体・美容室等からの意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成、それを校長が決定する。

作成したシラバスは毎年度3月に作成・公表する。

※シラバスの主な記載項目

- (1) 科目名
その授業の科目名を記載します
- (2) 学科／学年
授業を行う学科名および学年を記載します
- (3) 年度／時期
授業を行う年度および時期（前期・後期）を記載します
単位制の場合は標準履修年次を記載します
- (4) 授業形態
講義もしくは演習、実習等授業形態について記載します
- (5) 授業の回数
授業を行う回数（コマ数）を記載します
- (6) 単位数（時間数）
学則に記載している時間数を単位換算したものを記載します
講義：15時間を1単位とする
演習、実習：30時間を1単位とする
時間数は90分授業の場合、1コマ＝2単位時間
- (7) 必須・選択
必須授業もしくは選択授業について記載します
- (8) 授業担当者
授業を担当する教員名を記載します
複数の教員で担当する場合は全員の氏名を記載します
また、実務経験がある教員の場合はその旨を記載します
- (9) 授業の概要
授業の概要について記載します
実務経験がある教員が授業を行う場合は、実務経験をどのように活かして授業を行うかを記載します
- (10) 授業終了時の到達目標

授業終了時点において学生が修得している必要がある学修成果について記載します

目標を達成するのは学生なので、学生を主体として記載します

(11) 授業の内容

授業の各回におけるテーマおよび内容について具体的に記入します

※学生の理解度・実態に応じてやむを得ず変更する可能性もあります

(12) 教科書・教材

使用するテキストや参考図書等を記載します

(13) 評価基準

評価方法について記載します

また、評価基準についてそれぞれの項目の評価割合を記載します

(14) その他

備考および準備学習（授業に臨む前に行っておくべき内容）などについて記載します

授業計画書の公表方法

<http://web.anabuki-net.ne.jp/data/>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

【学生便覧より抜粋】

(3) (成績の評価)

①各科目の成績は、原則として年2回の期末ごと・科目ごとに「評定」の形で評価する

②成績の認定は、期末試験のほか、出席率(各科目80%以上)・課題・レポート・平常の授業態度・本人の向上心等を考慮し総合的に判断する

③成績評定はA、B、C、Dの4段階とし、A、B、Cを合格とする。

A=科目に対する理解及び日常の学習状況が極めて優秀な者(80点以上)

B=科目に対する理解及び日常の学習状況が良好な者(70点以上79点以下)

C=科目に対する理解及び日常の学習状況がやや劣る者(60点以上69点以下)

D=科目に対する理解及び日常の学習状況が著しく劣る者(60点未満)

④前・高期末試験

前・後期末試験については必ず受験しなければならない。

病気等やむを得ない事由で受験できなかった場合は、本人による事前連絡又は事前に理由書を提出し、校長が認めたときのみ追・再試の機会を与える。

ただし、事前連絡の無い者と追試験を受けなかった者は、再試験を受けることができず進級・卒業判定会議において可否を判定する。

⑤追試験

公欠(法定伝染病による欠席、就職活動)の場合は、事前に連絡があったもの限り別に日を決め追試験を行う。追試験の問題は原則本試験の問題とする

⑥再試験

a. D評定の科目を持つ者は学習の機会を与えて再試験を行う。

b. 再試験を受験する場合は、再試験受験票(1,000円/科目)を教務室にて購入しなければならない

c. 再試験に合格した者は、評定をCとする

d. 再試験の実施は1度のみとする

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価における客観的指標の設定成績評価は上記①の～⑥に記載のとおりであるが、その評価基準に基づき、半期終了時点で成績評価のベースとなった点数を各学科・学年の学生ごとに全科目合計した上で平均点を算出する。また、算出方法は、成績評価における客観的指標とし、学生に対しHP等を通じ広く周知する

客観的な指標の 算出方法の公表方法	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/f-seiseki/auf.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【学生便覧より抜粋】 (卒業条件)</p> <p>a. 原則として全科目の成績評価がすべてC以上であること b. 筆記・実技ともに卒業試験に合格していること (美容学科) 上記条件を満たしたものは卒業を認める。 但し、上記条件を満たさないものに対しても本人の努力や姿勢、若しくは不可抗力における入院等の事由がある場合、卒業判定会議においてこれらを総合的に考慮し卒業を認める場合がある。</p> <p>なお、各学科、卒業認定に係わる目標人材像は以下のとおりとする。</p> <p><美容学科></p> <p>①美容師国家試験合格を目標とし、高い技術力、感性、人間性を高め社会に通ずる人材を育成する ②ヘアスペシャリスト専攻、ブライダルスタイリスト専攻により、より専門的な知識と技術をもつスペシャリストを育成する</p> <p><エステティック学科></p> <p>①認定上級エステティシャン資格取得を目標とし、高い技術力、感性、人間性を高め社会に通ずる人材を育成する ②エステティック技術に加え、メイクアップ、ネイル、アロマセラピー等の技術を習得することで「美」に関するアドバイザーとしての質を高める</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2017/auf.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	穴吹ビューティ専門学校
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/fukuyama/kessan.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/fukuyama/kessan.pdf
財産目録	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/fukuyama/zaisan.pdf
事業報告書	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/fukuyama/jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告（書）	http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/fukuyama/kessan.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		衛生専門課程	美容学科	○	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2020 単位時間/単位	570 単位時間/単位	単位時間/単位	1450 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2020単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		25人	0人	4人	9人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的として「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体・美容室等からの意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成、それを校長が決定する</p> <p>作成したシラバスは毎年度3月に作成・公表する</p> <p>※シラバスの主な記載項目</p>

- (1) 科目名
その授業の科目名を記載します
- (2) 学科／学年
授業を行う学科名および学年を記載します
- (3) 年度／時期
授業を行う年度および時期（前期・後期）を記載します
単位制の場合は標準履修年次を記載します
- (4) 授業形態
講義もしくは演習、実習等授業形態について記載します
- (5) 授業の回数
授業を行う回数（コマ数）を記載します
- (6) 単位数（時間数）
学則に記載している時間数を単位換算したものを記載します
講義：15時間を1単位とする
演習、実習：30時間を1単位とする
時間数は90分授業の場合、1コマ＝2単位時間
- (7) 必須・選択
必須授業もしくは選択授業について記載します
- (8) 授業担当者
授業を担当する教員名を記載します
複数の教員で担当する場合は全員の氏名を記載します
また、実務経験がある教員の場合はその旨を記載します
- (9) 授業の概要
授業の概要について記載します
実務経験がある教員が授業を行う場合は、実務経験をどのように活かして授業を行うかを記載します
- (10) 授業終了時の到達目標
授業終了時点において学生が修得している必要がある学修成果について記載します
目標を達成するのは学生なので、学生を主体として記載します
- (11) 授業の内容
授業の各回におけるテーマおよび内容について具体的に記入します
※学生の理解度・実態に応じてやむを得ず変更する可能性もあります
- (12) 教科書・教材
使用するテキストや参考図書等を記載します

<p>(13) 評価基準 評価方法について記載します また、評価基準についてそれぞれの項目の評価割合を記載します</p> <p>(14) その他 備考および準備学習（授業に臨む前に行っておくべき内容）などについて記載します</p>

成績評価の基準・方法

<p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>【学生の手引きより抜粋】</p> <p>(3) (成績の評価)</p> <p>①各科目の成績は、原則として年2回の期末ごと・科目ごとに「評定」の形で評価する</p> <p>②成績の認定は、期末試験のほか、出席率（各科目80%以上）・課題・レポート・平常の授業態度・本人の向上心等を考慮し総合的に判断する</p> <p>③成績評定はA、B、C、Dの4段階とし、A、B、Cを合格とする。 A＝科目に対する理解及び日常の学習状況が極めて優秀な者（80点以上） B＝科目に対する理解及び日常の学習状況が良好な者（70点以上79点以下） C＝科目に対する理解及び日常の学習状況がやや劣る者（60点以上69点以下） D＝科目に対する理解及び日常の学習状況が著しく劣る者（60点未満）</p> <p>④前・高期末試験 前・後期末試験については必ず受験しなければならない。 病気等やむを得ない事由で受験できなかった場合は、本人による事前連絡又は事前に理由書を提出し、校長が認めたときのみ追・再試の機会を与える。 ただし、事前連絡の無い者と追試験を受けなかった者は、再試験を受けることができず進級・卒業判定会議において可否を判定する。</p> <p>⑤追試験 公欠（法定伝染病による欠席、就職活動）の場合は、事前に連絡があったもの限り別に日を決め追試験を行う。追試験の問題は原則本試験の問題とする</p> <p>⑥再試験 d. D評定の科目を持つ者は学習の機会を与えて再試験を行う。 e. 再試験を受験する場合は、再試験受験票（1,000円/科目）を教務室にて購入しなければならない f. 再試験に合格した者は、評定をCとする d. 再試験の実施は1度のみとする</p> <p>成績評価における客観的指標の設定成績評価は上記①の～⑥に記載のとおりであるが、その評価基準に基づき、半期終了時点で成績評価のベースとなった点数を各学科・学年の学生ごとに全科目合計した上で平均点を算出する。 また、算出方法は、成績評価における客観的指標とし、学生に対しHP等を通じ広く周知する</p>

卒業・進級の認定基準

<p>【様式第2号の3より再掲】 (卒業条件)</p> <p>a. 原則として全科目の成績評価がすべてC以上であること b. 筆記・実技ともに卒業試験に合格していること（美容学科） 上記条件を満たしたものは卒業を認める。 但し、上記条件を満たさないものに対しても本人の努力や姿勢、若しくは不可抗力における入院等の事由がある場合、卒業判定会議においてこれらを総合的に考慮し卒業を認める場合がある。</p> <p>なお、各学科、卒業認定に係わる目標人材像は以下のとおりとする</p> <p><美容学科></p> <p>①美容師国家試験合格を目標とし、高い技術力、感性、人間性を高め社会に通ずる人材を育成する ②ヘアスペシャリスト専攻、ブライダルスタイリスト専攻により、より専門的な知識と技術をもつスペシャリストを育成する</p>
<p>学修支援等</p> <p>個別相談・指導等対応 担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスおよびスクールカウンセラーによるカウンセリングを実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても学びラボといった支援部署を設置し、小集団、または個別に補講や支援を実施</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	人 (%)	15人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) MUKU hair、イメージサロンカット、RIBIAS、ランティスヘア、ブルームフラワーズ、あけぼのスタジオ、B u c c a 等			
(就職指導内容) 個別ガイダンス、面接指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 美容師国家試験 73.3%、ネイル検定3級 100%、ビューティコーディネータ検定 100%、まつ毛エクステンション検定 100%、山野流着装初伝 100%・中伝 100%・奥伝 100%、パーソナル検定3級 86.6%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

36人	5人(別に留年1名)	13.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生の変化を早期把握(HRや授業参加状況、遅刻、欠席対応)し、教員面談やカウンセラー面談、保護者面談を行い、心理面、健康面、学習面等の支援を行い課題解決支援・通学意欲の継続を学校全体で取り組む		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		商業実務専門課程	エステティック学科	—	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	1090 単位時間/単位	332 単位時間/単位		758 単位時間/単位		
			1090単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		15人	0人	1人	8人	9人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>【様式第2号の3より再掲】</p> <p>カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的として「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体・美容室等からの意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成、それを校長が決定する</p> <p>作成したシラバスは毎年度3月に作成・公表する</p> <p>※シラバスの主な記載項目</p> <p>(1) 科目名 その授業の科目名を記載します</p> <p>(2) 学科/学年 授業を行う学科名および学年を記載します</p> <p>(3) 年度/時期 授業を行う年度および時期(前期・後期)を記載します 単位制の場合は標準履修年次を記載します</p> <p>(4) 授業形態 講義もしくは演習、実習等授業形態について記載します</p> <p>(5) 授業の回数</p>

授業を行う回数（コマ数）を記載します

(6) 単位数（時間数）

学則に記載している時間数を単位換算したものを記載します

講義：15時間を1単位とする

演習、実習：30時間を1単位とする

時間数は90分授業の場合、1コマ＝2単位時間

(7) 必須・選択

必須授業もしくは選択授業について記載します

(8) 授業担当者

授業を担当する教員名を記載します

複数の教員で担当する場合は全員の氏名を記載します

また、実務経験がある教員の場合はその旨を記載します

(9) 授業の概要

授業の概要について記載します

実務経験がある教員が授業を行う場合は、実務経験をどのように活かして授業を行うかを記載します

(10) 授業終了時の到達目標

授業終了時点において学生が修得している必要がある学修成果について記載します

目標を達成するのは学生なので、学生を主体として記載します

(11) 授業の内容

授業の各回におけるテーマおよび内容について具体的に記入します

※学生の理解度・実態に応じてやむを得ず変更する可能性もあります

(12) 教科書・教材

使用するテキストや参考図書等を記載します

(13) 評価基準

評価方法について記載します

また、評価基準についてそれぞれの項目の評価割合を記載します

(14) その他

備考および準備学習（授業に臨む前に行っておくべき内容）などについて記載します

成績評価の基準・方法

【様式第2号の3より再掲】

【学生便覧より抜粋】

(3) (成績の評価)

- ①各科目の成績は、原則として年2回の期末ごと・科目ごとに「評定」の形で評価する
- ②成績の認定は、期末試験のほか、出席率（各科目80%以上）・課題・レポート・平常の授業態度・本人の向上心等を考慮し総合的に判断する
- ③成績評定はA、B、C、Dの4段階とし、A、B、Cを合格とする。
A＝科目に対する理解及び日常の学習状況が極めて優秀な者（80点以上）
B＝科目に対する理解及び日常の学習状況が良好な者（70点以上79点以下）
C＝科目に対する理解及び日常の学習状況がやや劣る者（60点以上69点以下）
D＝科目に対する理解及び日常の学習状況が著しく劣る者（60点未満）
- ④前・高期末試験
前・後期末試験については必ず受験しなければならない。
病気等やむを得ない事由で受験できなかった場合は、本人による事前連絡又は事前に理由書を提出し、校長が認めたときのみ追・再試の機会を与える。
ただし、事前連絡の無い者と追試験を受けなかった者は、再試験を受けることができず進級・卒業判定会議において可否を判定する。
- ⑤追試験
公欠（法定伝染病による欠席、就職活動）の場合は、事前に連絡があったもの限り別に日を決め追試験を行う。追試験の問題は原則本試験の問題とする
- ⑥再試験
g. D評定の科目を持つ者は学習の機会を与えて再試験を行う。
h. 再試験を受験する場合は、再試験受験票（1,000円/科目）を教務室にて購入しなければならない
i. 再試験に合格した者は、評定をCとする
d. 再試験の実施は1度のみとする

成績評価における客観的指標の設定成績評価は上記①の～⑥に記載のとおりであるが、その評価基準に基づき、半期終了時点で成績評価のベースとなった点数を各学科・学年の学生ごとに全科目合計した上で平均点を算出する。また、算出方法は、成績評価における客観的指標とし、学生に対しHP等を通じ広く周知する

卒業・進級の認定基準

【様式第2号の3より再掲】

(卒業条件)

- a. 原則として全科目の成績評価がすべてC以上であること
- b. 筆記・実技ともに卒業試験に合格していること（美容学科）
上記条件を満たしたものは卒業を認める。
但し、上記条件を満たさないものに対しても本人の努力や姿勢、若しくは不可抗力における入院等の事由がある場合、卒業判定会議においてこれらを総合的に考慮し卒業を認める場合がある。

なお、各学科、卒業認定に係わる目標人材像は以下のとおりとする。

<エステティック学科> ①認定上級エステティシャン資格取得を目標とし、高い技術力、感性、人間性を高め社会に通ずる人材を育成する ②エステティック技術に加え、メイクアップ、ネイル、アロマセラピー等の技術を習得することで「美」に関するアドバイザーとしての質を高める
学修支援等
個別相談・指導等対応 担任による定期的なガイダンスや状況により他の教員による臨時ガイダンスおよびスクールカウンセラーによるカウンセリングを実施。必要に応じて保護者への連絡・相談・連携を図っている。学習についても学びラボといった支援部署を設置し、小集団、または個別に補講や支援を実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
13人 (100%)	人 (%)	13人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) イメージサロンカット、ソシエワールド、TBC、ラ・パルレ、メディビューティ、恋肌等			
(就職指導内容) 個別ガイダンス、面接指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 認定上級エステティシャン試験 91.6%、エステティシャンセンター試験 92.3%、アロマセラピー検定1級 92.3%、ネイリスト検定3級 92.3%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	4人(別に転科1名)	22.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生の変化を早期把握(HRや授業参加状況、遅刻、欠席対応)し、教員面談やカウンセラー面談、保護者面談を行い、心理面、健康面、学習面等の支援を行い課題解決支援・通学意欲の継続を学校全体で取り組む		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
美容学科	140,000 円	420,000 円	518,000 円	実習費、諸費用
エステティック学科	140,000 円	420,000 円	497,000 円	実習費、諸費用
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/fukuyama/auf-rating1.pdf
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 【学校関係者評価委員会規定より抜粋】 (設置) 第2条 本校に、より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、本校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。 (委員の委嘱等) 第3条 委員会を構成する委員は、5名以上とし、本校の職員以外のもので次に掲げる者のうちから、校長が委嘱する (1) 保護者 (2) 本校の卒業生 (3) 地域住民 (4) 企業関係者 (5) 高等学校関係者 (6) その他教育に関する有識者 (役割) 第4条 委員会は、本校が行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。 実施例としては、以下のとおりとする。 ① 関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける。 ② 自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する (自己点検項目：教育理念・目的・育成人材像、学校運営、教育活動、学習成果、学生支援、教育環境、学生募集と受け入れ、財務、法令等の遵守、社会地域貢献、国際交流等) ③結果として職業に必要な実践的かつ、専門的な能力がより習得できる改善計画を立

案し、P D C Aサイクルを回し続ける		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
国際美容協会 山野流着装関西・中 四国支部	H30. 4. 1～R2. 3. 31	企業等委員
(株) カトレア福山	H30. 4. 1～R2. 3. 31	企業等委員
(有) MDK	H30. 4. 1～R2. 3. 31	企業等委員
無職 (元高等学校校長)	H31. 4. 1～R2. 3. 31	高等学校関係者
小顔美容整骨サロンA T O R I E	H31. 4. 1～R2. 3. 31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
http://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/fukuyama/auf-rating2.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
http://web.anabuki-net.ne.jp/data/